

## 第1回登米圏域会議

【日時】令和6年7月31日（水）10時から12時まで

【場所】宮城県登米合同庁舎 501会議室

### （1）本県の観光の現状・課題に対する認識

- 登米圏域に限らないが、地方においてはやはり二次交通の対策が全体的に遅れていると感じる。登米圏域においては、交通アクセスが弱いことで、通過型の観光が多く、宿泊者数の伸びが弱い。
- 交通の要所である仙台を中心として、どのように地域に観光の輪を広げていくか。現状では、地方へ人が流れる仕組みが弱い。
- 宿泊観光者数について、登米圏域は8万人と各圏域の中で一番少なく、大きな課題であると認識している。
- 登米圏域に来るお客様が県内からなのか、遠方からなのか、また来訪手段について少しでも見えてくれば、PRの仕方も検討できると思われる。
- 観光業界等、バスについては運転手不足、人手不足に関する話が聞こえてくる。そういった部分も含めて、空港や仙台駅から登米圏域への輸送手段に関する評価が必要。
- 地域によってはオーバーツーリズムと言われているところもあるが、田舎の方からするとそのようなことは一切感じることもなく、『昨年より良い』程度の入込状況。
- 施設ごとのWi-Fi整備は行っているが、施設を出てしまうと接続できなくなってしまう状況があるので、インバウンド対応策としても、行政による地域としてのWi-Fi整備の加速が必要。
- 商談会等があっても、登米市としてなかなか参加できていないところが現状であるが、海外に情報発信していくことがこれからは一番大事。
- 海外の方の要望として、地元との交流や地域の暮らしぶり体験があり、実際受け入れたアメリカ人向け教育旅行のアンケートでは、ゴールデンルートよりも、地元高校生との交流が一番楽しかったという感想が寄せられている。ゴールデンルートで日本を知り尽くし、今度はあまり混んでいないところに行ってみたいという方々が欧米には増えている様子。
- 来年は伊豆沼・内沼がラムサール条約に指定されてから40年を迎えることもあり、関連する方々と連携しながら情報発信し、誘客に繋げていきたい。
- 宮城県はお土産大国と言っていいほど、優秀なお土産がたくさんあるので、PRの方法を工夫していく必要がある。

## (2) 本県の観光が目指すべき姿や観光戦略プロジェクト

- いい意味で田舎、地方に来たということを実感できる場所があり、非日常感を味わってもらえる圏域である。あえて不便な面を出していくのも、田舎の魅力の一つと考える。
- 登米圏域のPR方法として、首都圏方面も含めた駅などへのポスター掲出、車内吊りポスターの提案。県内の方向けであれば、仙台駅2階の駅旅コンシェルジュの活用など。
- インバウンドについて、現状ではなかなかお金を落としてくれるような観光がされていない印象。今後、もう少し単価の高いお客様がいるような国の便を仙台空港に誘致するなど、工夫が必要。
- 長期的にお客様に来ていただけるようなイベントを仙台圏集中型ではなく、各圏域ごとに分散して開催することで、県内を周遊していただけるのではないかと。
- 日本ならではのもの、田舎くさいものに対して魅力を感じるというインバウンドの方は多い。
- 二次交通としてバス等をいくら増やしても、劇的な伸びは期待できない中で、レンタカー含めての車、自家用車利用による誘客にスポットを当てていった方がより健全と考える。
- 海外のVIP、既存ルートのインバウンドでも、お金を持っている方はいるので、その人たちを呼び込めるような付加価値のあるコンテンツを充実させていくことが一番良い。
- 二次交通について、海外の方はウーバータクシー等の利用が多いようなので、登米、栗原、郡部のタクシー業者も、整備していく必要があるのではないかと。
- 第6期みやぎ観光戦略プランの骨子案において、基本理念が『地域が主役となる持続可能な観光地域づくり』というところは、地域に目を向けていただけたということでも良かった。
- 同じく骨子案に係る戦略4の『国内外との交流拡大の促進』に、ぜひ力を入れていただき、登米圏域にもお客様を呼び込むきっかけ作りの支援をお願いしたい。
- 海外の教育旅行は、登米圏域と非常に親和性が高いと考えている。宿泊施設の問題はあるが、ホテル旅館、民泊の皆さんと連携していけば、非常に良いコンテンツができると考えている。
- 一企業が実施するPR活動には限界があるので、県、市のバックアップが必要。

## (3) 数値目標の設定方針

- 観光消費額の単価の追加を検討される点について、賛同する。消費額の計算方法についても難しいところがあるが、適宜アドバイスいただければ、データ蓄積が可能と考える。